

会 議 録

会議の名称	令和５年度第４回白岡市参画と協働のまちづくり審議会
開催日	令和５年７月２６日（水）
開催時間	午後１時３０分 から 午後４時１０分 まで
開催場所	白岡市コミュニティセンター 集会室１・２
会長の氏名	渡部 勲
出席者（出席 委員）の氏名・ 出席者数	渡部 勲、増田政史、中島勝夫、林 修嗣、門田晴奈、小森あゆ子、 ６人
欠席者（欠席 委員）の氏名・ 欠席者数	堀切俊介、岡安 学 ２人
説明員の職・ 氏名	生活経済部長 神田 正 地域振興課 主幹 中野立士 地域振興課 主査 市民協働担当 長島雅治 地域振興課 主任 市民協働担当 河野 彰
事務局職員の 職・氏名	地域振興課 主幹 中野立士 地域振興課 主査 市民協働担当 長島雅治 地域振興課 主任 市民協働担当 河野 彰
その他会議出席 者の職・氏名	コミュニティセンター館長 石塚以善 傍聴者 ０人
会議次第	１ 開会 ２ 挨拶 ３ 会議事項 （１） 令和５年度第３回まちづくり審議会の振返りについて （２） 市民活動に関する場所の検証について （３） 次世代について ４ その他 ５ 閉会

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 ・ 発言内容 ・ 決定事項
事務局（神田部長）	1 開会 神田部長の進行により会議が開会した。
渡部会長	2 挨拶 渡部会長から挨拶がなされた。
事務局（中野主幹）	3 会議事項 (1) 令和5年度第3回まちづくり審議会（議会）の振返りに ついて 事務局から資料1、2、3について、説明がなされた。 (質疑なし)
事務局（中野主幹）	(2) 市民活動に関する場所の検証について 事務局から資料4、5について、説明がなされた。
A委員	コミセンと中央公民館の違いは何か。
事務局（中野主幹）	中央公民館は社会教育施設。コミセンは集会施設であり、制限がかなり少ない。
A委員	公民館は、公民館法に定められており、法的な縛りがある。まちづくりにあたり、コミセンをより積極的に活用すべきと考えている。
渡部会長	公民館は、同じ公共施設なのに、コミセンと違って使いづらい。
B委員	テーマは、コミセンをプラットフォームにということである。他の市内公共施設で、コミセンのように利用で

	きないのか。そうであれば、コミセンがより自由であるという点をもっとアピールすべきである。新白岡などでも、こういった施設があればよいといった声もある。
渡部会長	実際には、公民館でもコミセンでも、同じような事業をやっている。一般市民にとっては、違いが分かりづらい。
C委員	公民館やコミセンの稼働率はどのようになっているのか。低い場合には対策などはあるのか。
事務局（中野主幹）	会議室等の空きが多いような時間帯には、街活性室で自主事業という形で講座等を実施していただき、有効活用を図っている。
C委員	コミセンの集会室で新年会のような形でカラオケをやろうとしたが、防音設備の関係で利用できなかった。地域の集会所でも、カラオケ設備を持っているところがある。 コミセンの印象としては、住んでいる地域が近いこともあり、使いづらいということはない。
渡部会長	白岡市内は、民間の喫茶店のような、気軽にお茶を飲んだり、話をしたりできるような場所が少ない。そうした商業施設が不足している。
C委員	公共施設と喫茶店のような商業施設が一体となっているところも結構ある。そういった場所があると、より集まりやすいのではないかと。
B委員	舞台ホールで音楽関係の利用をしたいという話もあるが、グランドピアノの状態があまりよくない。一般市民が利用する分にはよいが、プロの方が演奏するのには

	不十分である。
石塚館長	音楽室は、防音を高める改修をしている。舞台ホールは音漏れがあるので、対応を考えたい。
D委員	利用を見直すような機会はあるのか。どのように決めているのか。
事務局（中野主幹）	開設当初に、検討委員会などで決めており、その際に市民の声なども反映させている。
渡部会長	条例で決まっているでは納得できない。改正を検討していただきたい。
B委員	施設によって、同じ質問をしても回答が異なる。同じ答えならよいと思うのだが。
D委員	公共施設でも対応が異なるので、上から統括的に利用を見直したり、市民の意見を聞いたりできるような組織があってもよいのではないか。
A委員	まちづくりの原点はそういったところからスタートすべきと考える。市民目線を取り入れるべきである。
C委員	施設ごとの一覧表のようなものがあるとよいのではないか。
B委員	予約システムはあるが、各公共施設の利用方法や金額、予約などがまとまっているとよいのではないか。また、これまでにどういった利用があったのかという事も載っていると参考になり、更に利用しやすくなると思われる。 施設の申請書の様式もバラバラなので、同じような様

	式であれば、他の施設を利用するときにも、書く負担が軽減できる。 ちなみに、プラットフォームのイメージは、どのようなものか。事前予約が必要で、会議室等で人が集うようなものか。予約しないでも、ふらっと利用できるようなイメージか。
事務局（中野主幹）	後者である。
渡部会長	館長の白岡のコミセンのイメージは。
石塚館長	設備は整いつつあるので、あとはどのようにPRしていくかである。 現在は、市民活動専用のパネルを設置しており、そこに冊子やチラシをおいて、会員の募集などもできるよう改善している。
E委員	コミセンが変わってきたということである。私が引っ越してきたときは、舞台ホールがあるというイメージしかなかった。実際に足を運んでくる人は知ることができるが、市民への周知はどのようにしているのか。
石塚館長	コミセンの広報紙を広報しらおかと一緒に年2回全戸配布している。それ以外の月も、全戸配布はしていないが毎月発行はしている。
A委員	知り合いが、蓮田駅前の西口行政センターのギャラリーを利用していた。そういったものもあるとよい。
D委員	コミセンの施設の複合化や建て替えなどは検討されているのか。
神田部長	特にない。公共施設の総合管理計画の中で公共施設全

	体の延面積を削減するような方向となっている。
D委員	現状をどうするかだけではなく、将来的なビジョンを考えるべきである。
C委員	公共施設の利用者が減少するから見直すのか。財政的な要素で見直すのか。どちらのファクターなのか。
神田部長	人口の減少が見込まれている。財政的には、少子高齢化に伴い扶助費の増加が見込まれている。そういったこともあり、これまでの維持管理も今までどおりとはいかなくなることが見込まれる。
E委員	○ 市民活動の場としての行政区の集会所の活用について ニュータウンアカデミーとして、年３～４回白岡ニュータウンの集会所でコンサートや講座を実施している。毎回好評である。 自治会から補助金をいただいている。社協のサロンの登録もしており、その補助金もいただいている。 ３丁目の集会所が一番古くて、靴からスリッパに履き替えるので煩わしいが、ノースプラザだとそれもないので、利用しやすい。
渡部会長	地域の自治会などが、管理運営をしていることが多い。
E委員	白岡ニュータウン自治会は、事務局があり、事務員が常駐しているので、集会所の予約などもそこでできる。
C委員	山地区では、平屋の借家を改修して、１０年程前に集会所を作った。事務員がいるわけではないので、利用予約などの負担もある。他の行政区だと集会所の稼働率は

A委員	あまり高くないようである。 行政区同士の繋がりが必要となるが、自治会の連合会みたいなものを作って、それぞれの会館の融通だったり、事務員が常駐できたりできるとよいのではないか。 連合会について、高齢者の関係で学区を中心に集まりを作って、利用できるような仕組みを作ろうとしたことがあった。誰がやるのかや、費用の関係などの問題もある。情報交換することで、違った道も開けるかもしれない。行政区単体で考えても進まない。
C委員	集会所の利用について、子ども会の利用を無料でできるようにした。集会所の使用料で集会所の維持管理費を賄おうとすると、使用料がかなり高くなってしまいますので、それはお勧めできない。行政区費などで賄って、みんなで支えるような考えでよいのではないか。
A委員	集会所にカラオケの設備はあるが、防音装置がない。集会所ができたときは、周りに家もなかったからよかったのかもしれないが、今は使用されていない。
E委員	ノースプラザは、防音になっており、カラオケなどで利用されている。
事務局（中野主幹）	行政区に管理運営を任せているので、市での対応は難しいが、何か先導できるものがあるとよい。
C委員	区長会で考えるというよりも、市で何か考えてあげないと、議論が難しいのではないか。
A委員	集会所は、すべての行政区にあるわけではないし、利用方法もばらばらである。やるとしたら、地域振興課で考えていかないと難しい。集会所の利用についての認識

事務局（中野主幹） A委員 C委員 A委員 C委員 D委員	は各行政区で異なる。別の切り口から検討する必要がある。 (3) 次世代について 事務局から資料6、7について、説明がなされた。 身近には、子育て世帯が多い。次の世代の意見を取り入れる方法を考える必要がある。 6月に防災訓練をやったが、60数名の参加のうち、15名くらいが小学生であり、地道な広報活動や子供たちのお土産を検討するなどをするしかない。 夏休み中は、子供ラジオ体操をやっている。普段参加しないような親も子供と一緒に参加したり、ラジオ体操が終わった後も親同士の会話の機会となっている。若い人は発言することが難しいようであり、回数を重ねてお互いに顔見知りとなって、言いやすいような環境を作っていくしかない。 若い人たちも関心はあるけど、きっかけがないとなかなか入っていけないということもあるようである。 地道に続けていくしかない。 地元の憩いの森公園には、いくつかの幼稚園のバスがとまる。その公園で子供は遊んでおり、迎えにきた親も、交流が生まれている。孫の面倒でその場に加わっている方から、若い世代の話を聞くことが多い。 継続していくためには、若い世代を巻き込んでいく必要がある。そのためには子供や子育てがきっかけとなる。子供を中心に考えていく必要がある。縁日の要素がいいのかもしれない。
---	--

A委員	まさに、夏祭りとしてそれをやっている。
C委員	継続させていく際に、役員が代わっていくと難しい。 役員のリーダーシップも課題である。地域のリーダーの 選出や育成を考えていく必要があるのかもしれない。
D委員	区長だけに任せるのではなく、若い人たちに入ってもら う必要がある。
渡部会長	今年は復活の年であるため、来年以降に繋げていく必 要がある。
事務局（長島主査）	4 その他 事務局から事務連絡がなされる。 次回会議予定、9月27日（水）午後1時30分から市役 所4階会議室404で行う。 5 閉会

議事のでん末・概要を記載し、その相違なきを証するため、ここに署名する。

令和 年 月 日